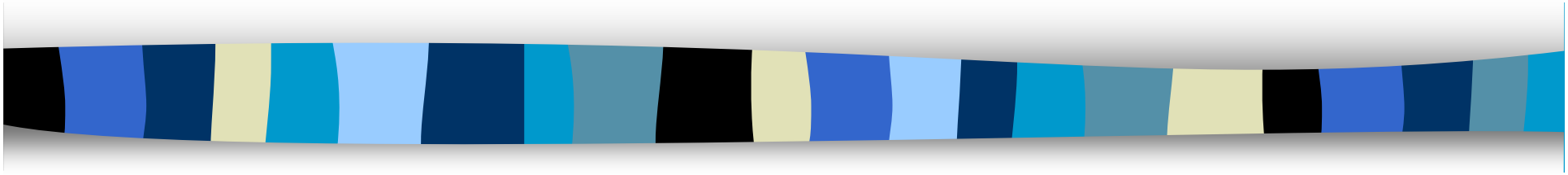
第5回がん市民公開講座

# 胃がん手術患者の看護



## ～手術から退院までの関わり～

独立行政法人　国立病院機構　岡山医療センター
消化器外科・内科病棟看護師　　細川　樹理

1. 入院されてから手術までの関わり

2. 手術後の関わり

3. 食事の食べ方

4. 退院後の生活を考えた指導

# 胃がんと告知されて

- どのように病気を受け止めていますか？

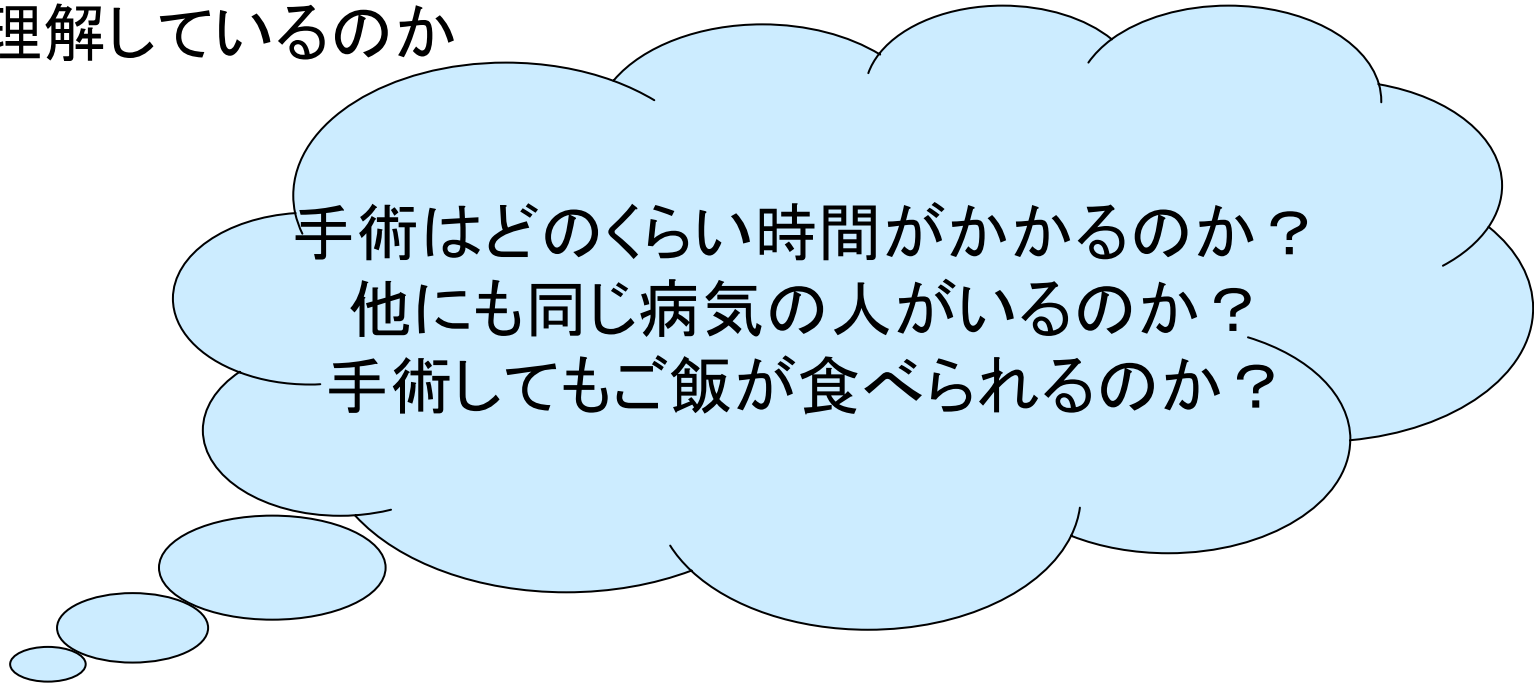
「手術して病気を治したい！」
「手術しないといけないから、、、」
「先生に全てお任せします」

病気と向かい合う気持ちを持つ

# 患者さんを知る

- 患者さんの話を傾聴する

・患者さんが何を知りたいのか
・病気、治療のことをどこまで
　理解しているのか



# 手術に向けて

- 疑問の解決･不安の軽減

医師からの説明

入院診療計画書説明
‘‘退院までの流れの説明’’

術前オリエンテーション
‘‘手術の準備を整える’’

# 入院診療計画書

## 《入院診療計画書》

患者氏名　　様　　主治医：

| | |
|---|---|
| 1.推定入院期間 | 21日間 |
| 2.現在考えられる病名 | |
| 3.症状 | |
| 4.入院目的 | 手術 |
| 5.治療計画 | 胃全摘出術予定 |
| 退院計画の有無 | あり ・ なし |

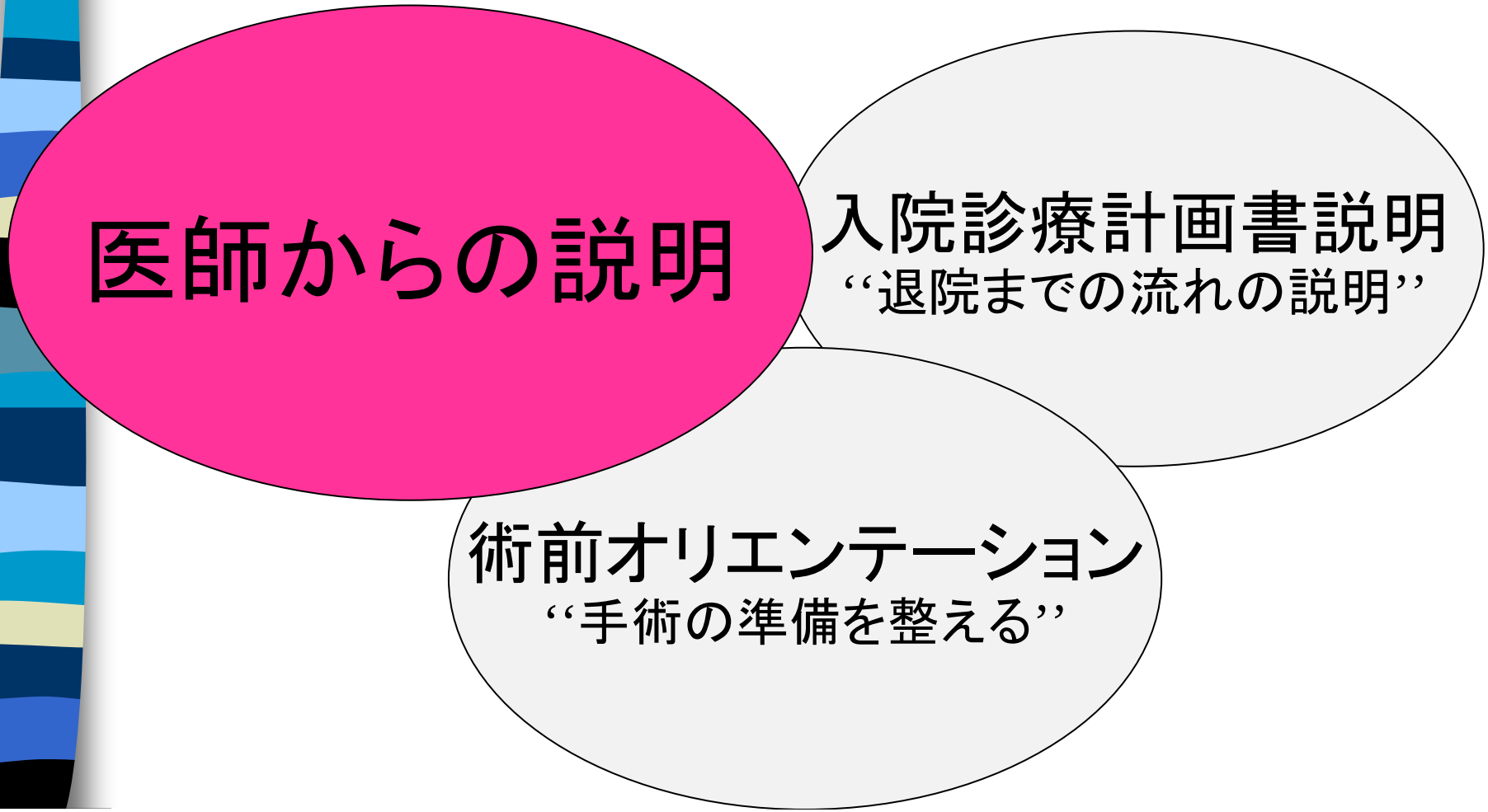
注1：病名等は現時点で考えられるもので、今後検査等を
注2：入院期間については現時点で予想されるものです。

| 年 月 日 | 入院日・手術前日 | 手術当日(手術前) | 手術当日(術後) | 手術翌日～4日目 | 5日目～7日目 | 8日目 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 治療目標 | ・術前の準備ができ手術を迎えることができる。<br>・術前の検査終えることができる。<br>・手術の内容・術後の状況に関して理解できてる。 | ・予定通り手術ができる。 | ・術後合併症を起こさず全身状態が安定している。<br>・38.0度以上の発熱がなく過ごせる。<br>・創部痛があるときは、痛み止めを使用され、緩和できる。 | ・術後合併症を起こさず全身状態が安定している。<br>・38.0度以上の発熱がなく過ごせる。<br>・創部痛があるときは、痛み止めを使用され、緩和できる。<br>・早期に体を動かすことの必要性が理解でき歩行できる。<br>・術後2日目までには尿管が抜けトイレまで歩行できる。 | ・水分摂取ができる。<br>・重湯を食べることができる。<br>・病棟内を歩けるようになる。 | ・食事が開始と<br>・食事をしても胆<br>ない。<br>・お腹の管が抜<br>できる。 |
| 食事 | ・手術前日までお食事はありますが、病院食以外のものは食べないようにしてください。 | ・食べたり飲んだりしないでお待ちください。 | ・食べたり飲んだりできません。 | ・食べたり飲んだりできません。 | ・5日目から水分は摂れるようになります。看護師がお伝えするまではお待ちください。<br>・6日目からはお食事が重湯から始まります。 | ・毎日食事が変<br>・お食事がはじ<br>らお食事の食べ<br>明があります。 |
| 活動 | ・特に制限はありません。 | ・トイレ、洗面以外はベッド上でお過ごし下さい。 | ・手術後はベッド上でお過ごしください。ベッドの上で体の向きを変えることはできます。 | ・手術翌日から状態が落ち着いていれば、体を動かしていきます。最初に歩くときは看護師が付き添います。<br>・できる範囲で歩きましょう。 | ・病棟内を歩けます。 | ・活動の制限は<br>どんどん動きまし |
| 清潔 | ・入浴、シャワー浴ができます。<br>・手術前日は除毛後に入浴してください。 | ・入浴・シャワー浴はできません。 | | ・看護師が体を拭いたり シャンプーをしたりします。 | | ・お腹の管が レ<br>シャワー浴がで<br>頃) |
| 処置 | ・手術の前日に除毛、腑の処置をします。<br>・手術前日に、麻酔科医の診察があります。 | ・朝、浣腸を行います。<br>・手術衣に着替えていただきます。<br>・血栓予防のソックスをはいていただきます。<br>・鼻から管を入れます。 | ・手術後は鼻の管、尿管、おなかの管、背中に痛み止めの管が入っています。<br>・心電図モニター、血圧計を付けさせていただきます。<br>・血栓予防のマッサージ器を足に付 | ・手術翌日には心電図モニター、血圧計ははずれます。歩行ができれば、足のマッサージ器もはずします。<br>・手術翌日～2日目頃には尿の管が抜けます。<br>・状態を見て2～3日目には鼻の管が抜けま | ・調子がよければお腹の管を順次抜いていきます。<br>・6日目頃より点滴は昼間だけになります。 | 10日目までは毎<br>す。 |
| | ・外来で行っていない検査があれば | | | | ・レントゲンや採血などがありま | |

ページ 1

# 手術に向けて

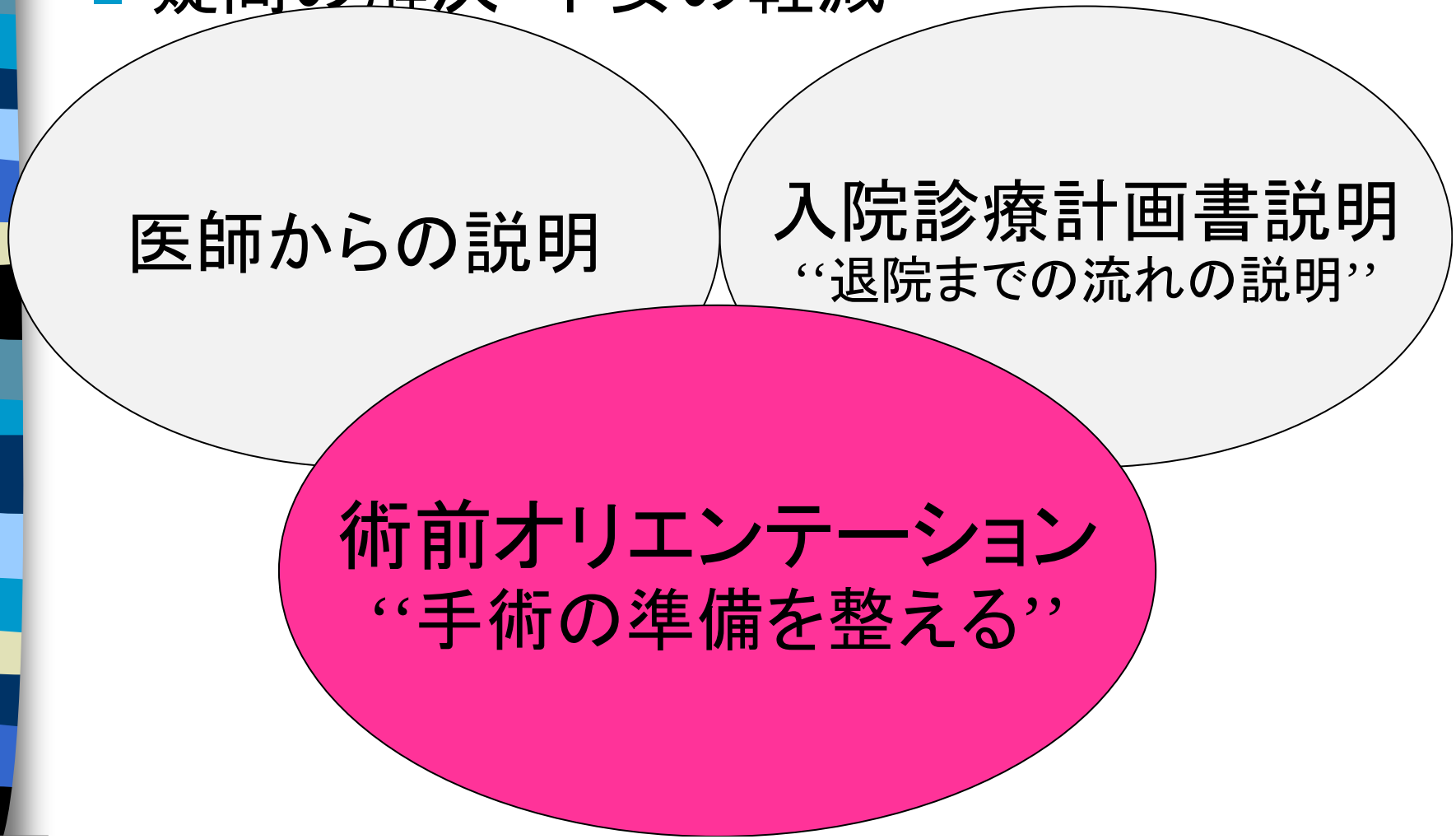
- 疑問の解決･不安の軽減

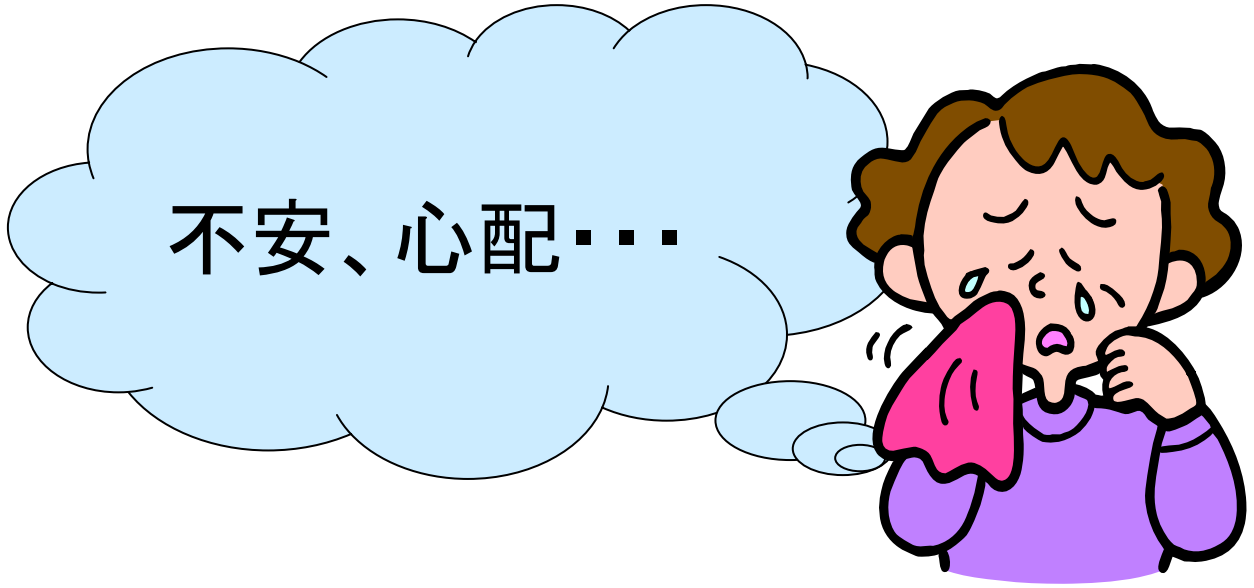


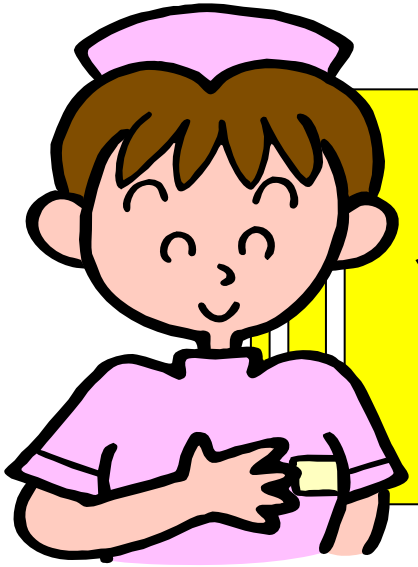
説明はどうでした？
アレはどうなるんだろう？
よく分からなかったなぁ…
もう一度聞きたいけど…
いいですよ

# 手術に向けて

- 疑問の解決・不安の軽減





不安と疑問の解決・改善
患者さまに寄り添う看護

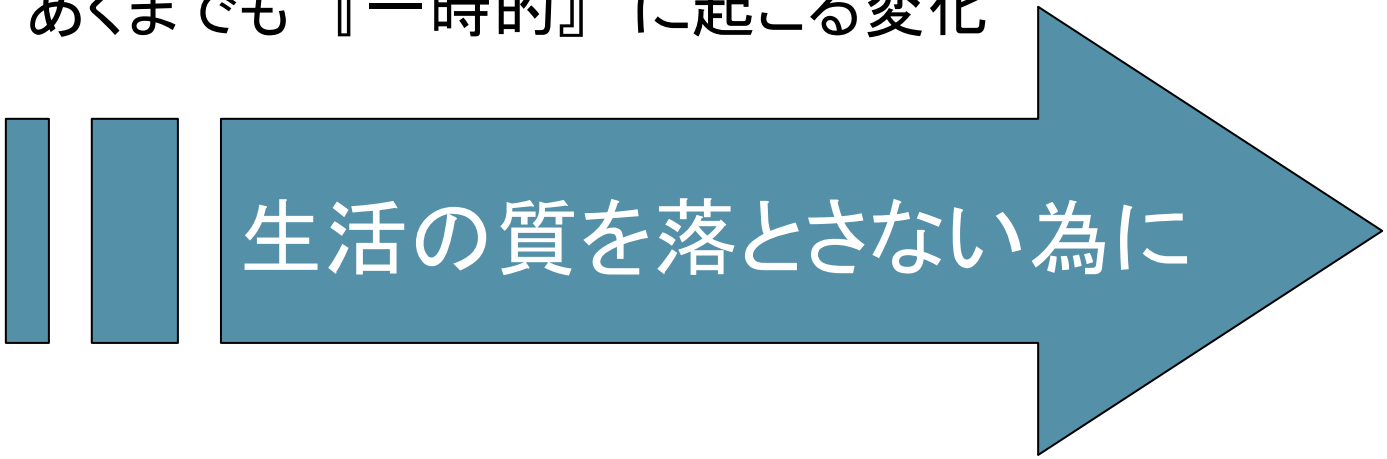
# 患者さんに起こる変化

- 生活環境の変化

  自宅から病院に変わる
  他患者さんとの療養生活が始まる

- 日常生活動作の変化

  検査や手術後は、自分でできていたことが難しくなる
  あくまでも『一時的』に起こる変化



# 早期離床に向けた援助

早期離床とは、ベッドから早く離れること

- 手術後は早めに動く

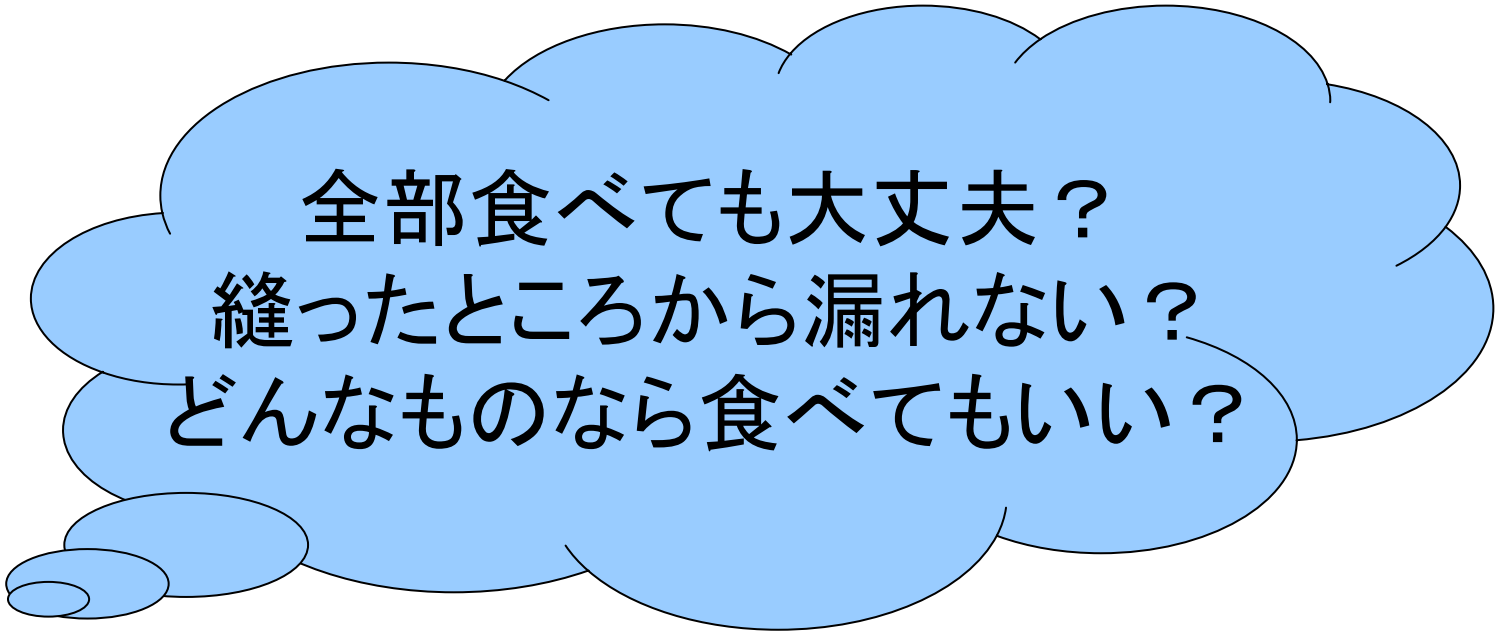
# 早く体を動かすことの必要性

- 早く手術前のからだに戻る
- 腸の動きが活発になる
- 体の回復が早くなる

体を早く動かすことは
良いことがいっぱい！

# 食事が始まります

- 手術後3～5日目には食事が始まる
- 食事が始まって患者さんが思うこと



# 食事は少しずつ変わります

・胃の消化機能に負担をかけない食べ物
・手術後には手術後の食べ方

小分けに食べる

ゆっくり食べる

# 食事のときに気をつけることは？

- ダンピング症状（冷や汗、動悸、めまい、全身倦怠感など）

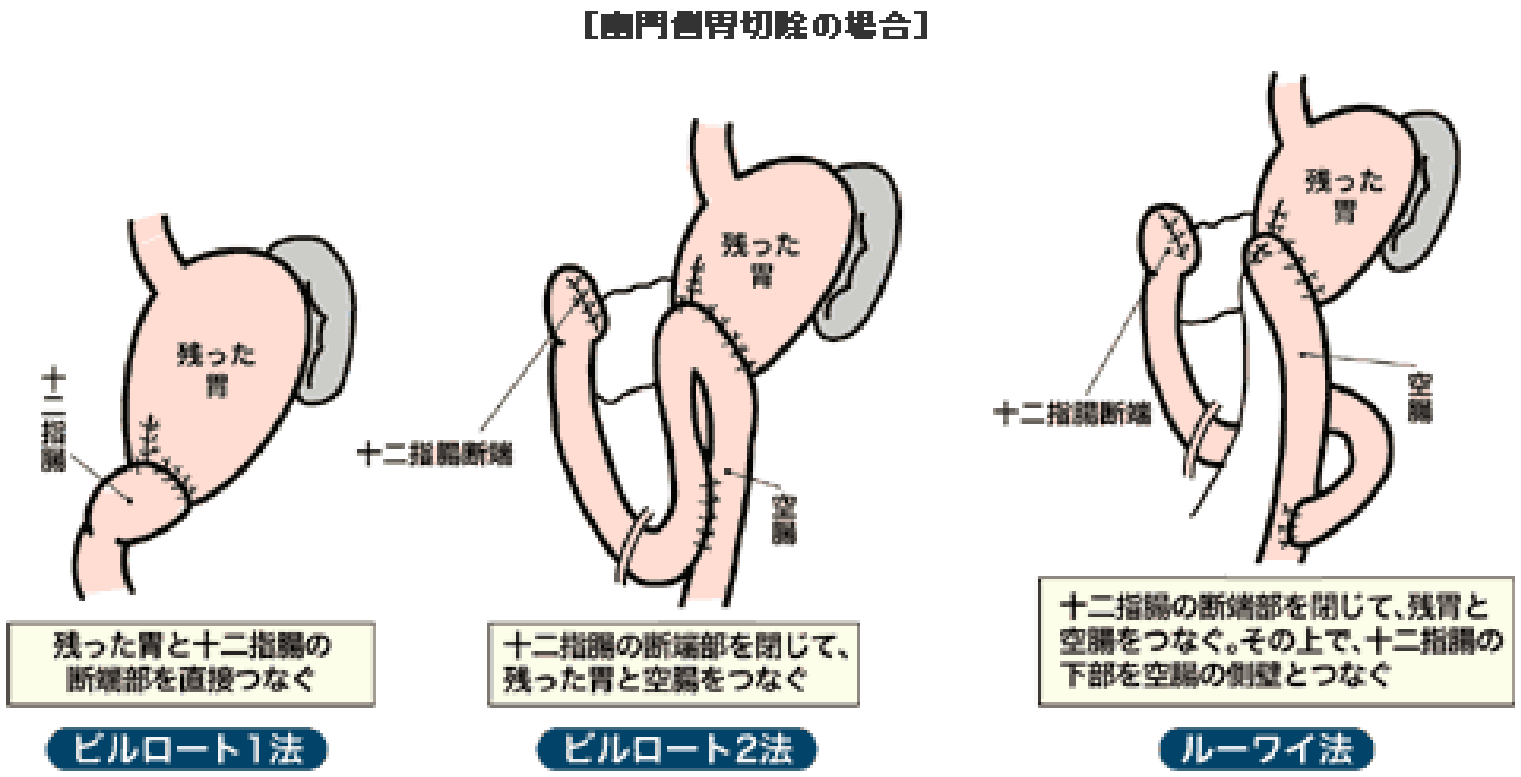
食べたものが一気に腸へと流れこむことで起こる症状

・分割食
・食後の姿勢（食後15分間位座った姿勢で）

- 食後のつかえ感、嘔吐

・食べるときによく噛むことを意識して
・休息をとりながら食べることを意識して
・食事をやわらかいものに変えてみる

# 手術後の胃はこうなっています



# 退院に向けての指導

- 食事の内容・食べ方
- 排便コントロール

退院後は患者さんが自分で
管理していくことが大切！
入院中に練習して、退院後
に困らないようにしましょう

# 私たちが大切にしている看護

- 患者さんの理解者になる
- 安全・安楽に過ごせる
- 退院後の生活を考えた支援
- 生活の質を落とさない